

宇部・山陽小野田消防局消防長賞

「熊本地震を体験して」

宇部市立桃山中学校 3年 永田 由香里

私は、中学2年生のときに初めて、震度7という大きな地震を体験した。その時はもう、何がなんだか分からなくて、ただ、怖かった。でも、それは、体験した人にしか分からないもので、体験したからこそ分かるものだと思う。だから、テレビで震度7と聞いても、実際にそこにいないと分からない。だからこそ怖いし、忘れられない。いや、忘れてはいけないと思った。

先日、学校で、地震についての講演があった。30年以内に、必ず、この町にも地震が起こるだろうとのことだった。もし、起きた場合、机の下に隠れるとか、指示をよく聞いて行動するとか、色々あったが、私は地震が起きたとき、何もできなかった。ただ、倒れていくものや、私の真上にある電気が、火花を散らして揺れているのを見て、「あー、わたし死ぬかもしれないな。」と、思っただけだった。机の下に隠れる余裕なんてなかった。小学校のころから今まで、災害の訓練は何回もしてきたのに、何もできなかったのは、私が災害を甘くみていた結果だと思った。訓練をするとき、自分でその場面を想像していないかぎり、何回やっても意味の無いことだと思った。そう思えたのも、実際に体験したからだ。

でも、一度地震を体験しているから、次また地震が起こったときに何かできるとは限らない。再び、何もできないかもしれない。そのためにも、家族と、避難場所を決めておいたり、懐中電灯などが入った災害用のバッグを用意したりするなどの対策をしておくことは大切だと思う。

また、地震はいつ起こるか分からない。一回目の地震は塾中だったが、二回目の地震は寝ているときだった。真っ暗で何も見えないまま、玄関のドアまで歩いたのは、一回目の地震とは比べものにならないくらい怖かったことを覚えている。

これから先、部活中や旅行中に地震が起こったとしても、あせらずに、落ちついて行動したい。ということが今の私の目標である。

災害のない平和な日が続くと、意識がうすれてしまう。平和なことはとても幸せなことをかみしめながら、大地震を体験した者として、目標を忘れず、意識をもち続けたい。そのためには、思い出したくない体験であっても、家族や友人と話すことも必要だと思う。そして、私は、命を決して粗末にしないことを約束し、将来は、命にかかわる職業につきたいと思っている。



